

# PTA 研究大会 参加報告書

所属	浜松市 PTA 連絡協議会	役職	副会長	氏名	市川 真吾
----	---------------	----	-----	----	-------

## (1) 概要

日時	2022 年 10 月 15 日(土)・16 日(日)	場所	ふじさんホール・河口湖ステラシアター
大会名	第 54 回 日本 PTA 関東ブロック研究大会 山梨大会		
参加会	第 4 分科会 (1 日目) ・ 全体会 (2 日目)		

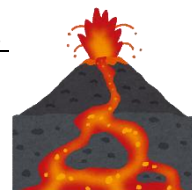
## (2) 報告事項

### 研修内容

#### ■第 4 分科会 安心安全「知」

- 講演「富士山の噴火に備えて ～過去から学ぶもの～」 富士山科学研究所 吉本充宏 氏

- 自然災害自体は防ぐことが出来ない。自然災害を回避するためには「**知識**」x「**経験**」x「**意識**」が必要。3つが揃わないと回避できないが、「**意識**」が最も難しい。定着のためには「**教育**」と「**訓練**」が必要。
- 東日本大震災では生存者と被害者の避難行動の差が如実に表れる結果となった。学校の先生は一般人より災害に対する高い意識が必要とされる。
- 2019 年の台風被害では、出ている情報を適切に使うことが出来ずに被害に遭った人が多かった。前回の台風ではあまり被害がなかった場合、今回も大丈夫だという意識が働いてしまう（**認知バイアス**）
- 世界遺産である富士山は、日本一の活火山でもある。過去 1,200 年で 10 回の噴火あり。周期があるわけではなく頻度も低いため、知識が定着しにくい。
- 富士山には山頂火口以外にも多くの火口があり、様々なパターンの災害が考えられる。  
(溶岩流、火山灰、噴石、火砕流、火山ガス、土石流 等) 複数種類のハザードマップを用意している。  
溶岩流は歩く速さより遅いため、歩いて避難すべき。車は事故や渋滞が起こる可能性が高い。  
宝永噴火(江戸時代)は 1 週間噴火し続け、7-8 年間も被害が出た記録がある。
- 御嶽山の噴火(2015 年)では、写真/動画を撮っていて初動が遅れた人の多くが亡くなった。
- 『備えていたことしか、役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった。』  
(東日本大震災発生時の東北地方整備局長 徳山日出男氏の言葉) 他の災害の教訓を取り込むことも重要である。



- 研究発表①「ちょこっとサポーターから比角スマイルプロジェクトへ～地域連携への取組～」 柏崎市立比角小 PTA

- 令和 2 年度会長・令和 3 年度会長による発表。  
突然の全国一斉臨時休校により、引継ぎも十分できないまま令和 2 年度の任期がスタート。  
集まることが出来ないため、PTA 総会は書面開催。先の見えない状況の中、PTA 役員として子供達・保護者に寄り添い、危機的状況を乗り越えようと思いつけた。
- 登下校時の見守りや、学校行事の受付/駐車場係などを担う「ちょこっとサポーター」を募集し、運営した。
- 子供たちのために学校と保護者が思いを共有し、知恵を出し合い、悩んだことが財産となった。
- 今年度から PTA の有志を中心に「比角スマイルプロジェクト」を立ち上げ、遊び場の提供、学習支援、子ども食堂の開設などを行い、専門家による子育て相談、不登校児やその保護者の支援などを計画中。
- コロナ禍がいろいろなことを見直すキッカケとなった。

- 研究発表②「コロナ禍だからこそできる全生徒に寄り添った活動を」 浜松東部中 PTA

- 令和 2 年度会長による発表。
- 生徒の暑さ対策として「東中スマイリー T シャツ」を製作、同時に制服規定の柔軟化も行った。  
背中には温かいメッセージをプリントした。1,300 円 x700 枚の半分は同窓会組織にて金銭支援した。

- 静岡県が開発した「静岡県防災アプリ」を活用し、「東中デジタル防災マップ」を作成した。歩いて危険箇所をチェックし、その場でデータ化した。危険箇所解消のため提言発表会も行った。

●研究発表③「なぜ私たちは『うんこ交通安全ドリル』を作ったのか？」川崎市立日吉中 PTA

- 令和元年度会長による発表。
- 子ども達に楽しく交通安全の知識を身に付けてもらうため、PTA と出版社がタッグを組んで「うんこ交通安全ドリル」を製作。
- ドリル作成…文響社、現場の声の収集…日吉小・中 PTA、に役割を分担。
- うんこシリーズのメリットは、カジュアル・ハイクオリティ・ポピュラリティ。
- PTA 参加によるニュース性により、早くからマスコミから注目された。
- 記録映像は TV 局に任せることができたので、PTA としてもメリットがあった。
- プロも必要とする PTA のポテンシャルを活かそう、ルーティンワークだけでない。



●研究発表④「富士山の火山災害から子供を守る活動」富士吉田市 PTA 連合会 / 富士吉田市立吉田西小 PTA

- 吉田西小 令和 4 年度会長による発表。
- 富士吉田市には小学校 7 校、中学校 4 校の計 11 校の小中学校があり、市 PTA 連合会を形成。児童・生徒の安心安全についての活動として、火山防災についても取り組んでいる。
- 令和 3 年にハザードマップが改訂され、噴火時は原則徒歩による避難行動を行うことが示された。これを受け、徒歩での避難訓練を保護者への引き渡し訓練を実施した。
- 防災活動に関して、これまで以上に学校・PTA・地域での連携が求められている。
- 保護者へのアンケートでは防災に対する意識の低さが目立った。今後は教育と訓練を通じた意識向上が求められる。

■全体会

●記念講演「私の科学と社会貢献」理学博士 大村智 氏（2015 年 ノーベル生理学医学賞 受賞）

大村氏が自身の半生を振り返るとともに、人生の指針となり行動規範となった数多くの言葉を紹介。

以下、講演中に紹介された言葉より抜粋：

- 「人には親切にしないで」「人のためになることをしないで」(母)
- 「人を羨むことがあれば、努力することでそれは消える」(父)
- 「百折不撓」[ひやくせつふとう]…何度失敗しても立ち上がり、信念を曲げないこと
- 「教師たる資格は、自分自身が進歩していることである」(母)
- 「正師を得ざれば学ばざるに如かず」(道元禅師)…正しい師の元でなければ学んでいないのも同然である
- 「実践躬行」[じっせんきゆうこう]…言うだけでなく、実行してることが大切である
- 「至誠惻怛」[しせいそくだつ]…他人、特に後進と接する場合は真心と真摯な姿勢が重要である
- 「君子は器ならず」(論語)…人の上に立つ者は 1 つのことに偏ることなく、幅広くその能力を発揮するべきである
- 「金を残すは下、名を残すは中、人を残すは上」(後藤新平)
- 「一期一会」

所 感

私自身、このような研究大会には今回が初参加だった。(コロナの影響で関ブロ大会のリアル開催は 4 年ぶりとのこと。) 講演を聞くだけならオンラインで十分と思っていたが、大会を通じていろいろな人と知り合えたり、お迎えてくれた山梨県 P の気遣いを至るところで感じたり、大会参加者の熱量を直に感じたり、PTA という団体のスケール感を改めて感じる事が出来た。参加できなかった分科会については、後日公開される予定のオンライン配信で内容を確認したい。個人的には各地区の PTA 連絡協議会の活動/取組や、体制/役割などについての話も聞いてみたいと思った。